

# 公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

## 平成27年度事業報告（概要）

### I. 公益目的事業

#### 1. 農林水産・食品分野における試験研究及び技術開発に功績ある者の表彰

##### 1) 農業技術功労者表彰

農業技術・経営の研究又は技術普及に顕著な功績を挙げた功労者を対象とする農業技術功労者表彰事業を農林水産省と共催した。審査会を開催し6件を選考するとともに、表彰式・祝賀会（12月18日（金） 三会堂ビル石垣記念ホール）を実施した。

##### 2) 第16回民間部門農林水産研究開発功績者表彰事業

民間部門における農林水産部門研究の優れた功績を表彰する第16回民間部門農林水産研究開発功績者表彰事業を農水省と共催した。協会会長賞2件を含む10件について、1月18日（水）アグリビジネス創出フェア2015（東京ビッグサイト）メインステージにおいて表彰した。

##### 3) 若手農林水産研究者表彰・交流支援事業

優れた功績をあげた若手研究者または将来の技術革新等につながる優れた研究業績をあげた若手研究者を表彰する第11回「若手農林水産研究者表彰事業（農林水産省農林水産技術会議主催）」に協賛し、選考委員会、表彰式を支援した。

また、表彰式（11月18日（水））に引き続き、東京ビッグサイト会議棟8階802会議室および8階レストラン「アルポルト」において「若手研究者による異分野交流会」を開催し、受賞者と参加者の意見交換を行った。

##### 4) 農事功績者表彰事業候補者の推薦

農事功績者表彰事業を主催する公益社団法人大日本農会の依頼により松永和久氏、鷺澤幸治氏を推薦したところ、両氏に「緑白綬有功章」が授与された。

#### 2. 農林水産・食品分野におけるイノベーション促進のための支援

##### 1) 情報の提供・普及

###### (1) 講演会、セミナー等の開催

農林水産業、食品産業及び関連産業をとりまく重要な技術課題を取り上げ、技術情報交流セミナー等を開催した。

###### (2) 機関誌の発行、情報のホームページ等での公開

機関誌「JATAFF ジャーナル」を毎月1日に1,700部を刊行した。ホームページの運営ではコンテンツの充実に努めた。ページビュー（閲覧ページ数）は年間約180万、延べ訪問数は約36万件であった。また、イベント、講演会、最新研究成果・事業実施情報等をメー

ルマガジンとして、JATAFF 正会員希望者に JATAFF ニュース(67号～90号、他に号外5号)を配信した。この他、公設試験場所の最新の研究成果情報等を収集、新技術として営農活動に寄与しうる課題を選定し、情報誌「グリーンレポート」掲載原稿を作成した。

## 2) 新産業の創出、研究開発・成果の普及のための調査・支援

### (1) 事業化を加速する産学連携支援事業

農林水産・食品産業分野における試験研究、及び農・食と素材、医薬、エネルギーなどの異分野との連携を強化した分野横断的な研究開発の推進を支援するため、全国の活動組織を集めたコンソーシアムを組織し、その代表機関として、高度な専門知識を有するコーディネーター(CD)を全国に配置、地域における産学連携活動を一体的に展開して技術シーズの事業化・商品化を図るとともに、全国規模及び地域において技術シーズに関するセミナーを開催する等の事業を実施した。

### (2) 農林水産・食品分野における研究成果の普及状況に関する調査等

#### ア 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(農食研究推進事業)における研究成果普及状況把握・分析調査等に係る業務委託事業(研究推進課)

25年度に終了した「先端技術を活用した農林水産高度化事業」及び「実用化技術開発事業」の研究課題並びに「イノベーション創出基礎的研究推進事業」から「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」に移管された課題のうち平成25年度に終了した79課題を対象とした2年後調査、「実用技術開発事業」、「高度化事業」において実施され平成22年度に終了した53課題を対象とした5年後調査を行い、研究成果に係る普及状況の詳細な把握と課題の分析を行った。

農食研究推進事業における研究課題の審査・評価関連業務、成果発表等の支援を行った。また、62名の専門POを配置して225課題の進行管理業務を実施した。

#### イ 食料生産地域再生のための先端技術展開事業における研究課題の進行管理調査等に係る業務委託事業(研究推進課)

22名の専門POを配置し、37研究課題の進行管理の支援等を実施した。

### (3) 植物品種の保護、開発等に関する調査研究

#### ア 「植物品種保護戦略フォーラム」の活動

植物品種の育成者の権利保護と活用促進に寄与するために、植物品種育成者権の侵害対策や活用に関する講演会及び登録品種表示マーク(PVPマーク)の普及、施策・制度に関する意見提出等を行う「植物品種保護戦略フォーラム」の事務局を担った。

#### イ 「新品種産業化研究会」の活動

既存の品種とは特徴の大きく異なる植物の新品種を用いて新しいビジネスを展開し、地域経済の活性化に資するため、「新品種産業化研究会」とその下に設けられた「すいおう分科会」及び「油糧米分科会」の事務局を担った。

#### ウ 東アジア包括的植物品種保護戦略事業

東アジア各国の植物品種保護(Plant Variety Protection、PVP)制度の整備・充実を支援し、その国際調和を図ることを目的として、各国のPVP制度の現状と課題に関する調査、東アジア植物品種保護フォーラム第8回会合の開催、PVP制度運営に向けた協力活動の推進、ホームページの運営管理、検討委員会の開催等を実施した。

#### エ 農林水産分野における遺伝資源利用促進事業

我が国の遺伝資源利用者による海外遺伝資源の円滑な導入と適切な利用を促進し、画期的な農作物等の新品種の開発促進に資するための本事業のうち、事業の実施主体である三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)から業務請負により東南アジア地域での植物調遺伝資源調査を実施した。

#### オ 海外種苗需要・流通実態調査事業

我が国の種苗業者がベトナムに野菜の種苗等を輸出するために、現地における野菜種苗の生産・流通体制、野菜の需給状況や要求される品質等の総合的な調査を実施した。

#### (4) 6次産業化促進技術対策事業

平成26年度に改訂した食品産業技術ロードマップ集をベースにして新たな健康機能性表示制度を視野にいれ、機能性に関する市場動向調査・分析、生鮮物を想定した機能性成分の簡易測定技術の整理等実施した。結果は報告書として冊子にまとめ、食品の機能性に係わる可能性のある公設研究機関や農林水産物の生産者団体に広く配布した。

### 3. 農林水産・食品分野における試験研究、技術開発を振興するための助成及び先端産業技術の開発

#### 1) 研究の助成

##### 新稲作研究会事業

我が国の土地利用型農業の活性化及び需要に応じた農業生産の拡大・環境保全に資するため、低コスト稲作、水田高度利用、野菜果樹作等の機械化一貫栽培体系の確立と普及を目的とした試験及び現地実証展示圃事業を、試験研究機関及び普及機関に委託して36課題を実施した。

#### 2) 農林水産・食品産業マイクロ・ナノバブル技術研究組合の事務局活動

「マイクロ・ナノバブル研究の最新情報と応用例～その可能性を含めて～」と題する公開シンポジウムを開催するとともに、JATFF ジャーナルにその概要を連載掲載するなど、マイクロ・ナノバブル技術の普及に向けた活動を推進した。

#### 3) 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)課題

##### (1) ファインバブルの活用「農林水産系ファインバブル技術開発」

研究コンソーシアムの代表機関として、研究の推進、成果のとりまとめ、経理事務の執行

等を担うとともに、自らも葉菜類等に対するファインバブル利用マニュアルの作成に取り組む。本年度は、特に、レタス栽培における効果を確認するため、稼働中の植物工場での実証試験に取り組んだ。

## (2) NBTの社会実装のための社会科学的調査と導入遺伝子残存や変異発生等に関する科学的知見の集積

NBTを利用して開発された農林水産物の産業化を推進するための会議の事務局を担当するとともに、国民の受容レベルの推測、上市・普及に供するための具体的戦略・手法の提案に向けて取り組んだ。

## 4) 農林水産先端技術研究所の活動

### (1) 畜産研究部

農林水産・食品分野における先端技術に関する研究を実施した。新規課題として平成27～28年度 JRA 畜産振興事業「ゲノム情報活用育種改良推進事業(豚改良へのゲノム情報の活用高度化事業)」を、また継続課題として農林水産省委託プロジェクト研究「DNA マーカー育種の高度化のための技術開発(平24～28)」、「海外からの侵入が危惧される重要家畜疾病の侵入・まん延の防止技術の開発(平25～29)」及び沖縄振興特別推進交付金事業「世界一おいしい豚肉作出事業」のうち「アグー集団で利用可能な DNA チップの開発」(平25～27)を実施した。

### (2) 産学連携研究部

#### ア 食料生産地域再生のための先端技術展開事業 (研究推進課)

「生体調節機能成分を活用した野菜生産技術の実証研究」(中核機関;農研機構食品総合研究所)において、普及支援機関として「機能性成分等を高めた野菜等の実用化・普及のためのプラットフォーム構築」を担当した。機能性成分であるルテインを高含有するハウレンソウを機能性表示食品として事業化することを想定し、ルテイン含量を安定的に高くするための方法論として、寒締め栽培のポテンシャルを評価することを目的として調査を行った。

#### イ 会員企業等との共同研究の実施

- ・ ジャパンアグリバイオ株式会社 (継続)  
「ゲノム解析による網羅的植物ウイルス検定技術の開発」
- ・ 株式会社グリーンソニア (継続)  
「ゲノム解析による植物の有用遺伝子の探索と育種マーカーの開発」
- ・ 株式会社シー・アクト (継続)  
「ゲノム解析による微細藻類の有用遺伝子の探索と選別マーカーの開発」

## Ⅱ. その他の事業

### (1) 農林水産技術同友会及び全国農業関係場所長会の事務局活動

### (2) 民間育成品種等の公的機関での評価試験委託

会員企業3社からの要請に基づき、会員企業が育成した品種の評価試験を関係試験研究機関6か所に委託して実施した。

### (3) 専門部会活動 「安全性・品質保証部会」

部会活動を通じて、会員活動の充実と、関係官庁、関係業界との情報交換、さらには会員参加による効果的な事業運営を図ることを目的として、食品表示関連テーマを始めとして講演会を3回開催した。

## Ⅲ. 総務関係

### 1. 平成27年度定時総会

6月12日(木) 13:15~14:45 共同通信会館5階AB会議室

### 2. 理事会

第1回理事会 5月21日(木) 10:00~12:00 三会堂ビル2階A会議室

第2回理事会 11月4日(水) 11:00~12:00 三会堂ビル2階A会議室

第3回理事会 3月16日(水) 10:00~12:00 三会堂ビル2階A会議室

### 3. 事業監査

5月14日(木) 9:00~10:30 協会会議室

### 4. 運営委員会

9月10日(木) 13:30~15:30 三会堂ビル2階S会議室